

平成22年3月期 第3四半期決算短信(非連結)

平成22年1月28日

上場会社名 株式会社アクセル

上場取引所 東

コード番号 6730 URL <http://www.axell.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 佐々木 謙

問合せ先責任者 (役職名) 取締役

(氏名) 千代 進弘

TEL 03-5298-1670

四半期報告書提出予定日 平成22年2月10日

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年3月期第3四半期の業績(平成21年4月1日～平成21年12月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第3四半期	11,899	2.6	4,988	0.5	4,999	0.2	3,083	1.3
21年3月期第3四半期	11,595	—	4,961	—	4,988	—	3,044	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第3四半期	248.63	248.61
21年3月期第3四半期	24,276.12	24,216.22

(注)22年3月期第3四半期の1株当たり四半期純利益につきましては、平成21年7月1日付で実施しました株式分割を加味した額を記載しております。詳しくは3ページ「(ご参考)株式分割に伴う遡及修正値」をご覧ください。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第3四半期	14,680	12,792	87.1	1,031.44
21年3月期	13,960	11,734	84.1	94,663.15

(参考)自己資本 22年3月期第3四半期 12,792百万円 21年3月期 11,734百万円

(注)22年3月期第3四半期の1株当たり純資産につきましては、平成21年7月1日付で実施しました株式分割を加味した額を記載しております。詳しくは3ページ「(ご参考)株式分割に伴う遡及修正値」をご覧ください。

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	7,500.00	—	8,500.00	16,000.00
22年3月期	—	80.00	—	—	—
22年3月期(予想)	—	—	—	80.00	160.00

(注)配当予想の当四半期における修正の有無 無

21年3月期期末配当金には、東京証券取引所市場第二部への上場記念配当1,000円00銭が含まれております。

22年3月期第2四半期末及び22年3月期(予想)の1株当たり配当金につきましては、平成21年7月1日付で実施しました株式分割を加味した額を記載しております。詳しくは3ページ「(ご参考)株式分割に伴う遡及修正値」をご覧ください。

3. 平成22年3月期の業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	16,020	3.9	6,240	1.5	6,250	1.3	3,860	1.6	307.08

(注)業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

22年3月期の業績予想における1株当たり当期純利益につきましては、平成21年7月1日付で実施しました株式分割を加味した額を記載しております。

4. その他

(1) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

〔(注)詳細は、5ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。〕

(2) 四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

- ① 会計基準等の改正に伴う変更 無
- ② ①以外の変更 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 22年3月期第3四半期 12,570,000株 21年3月期 125,700株
- ② 期末自己株式数 22年3月期第3四半期 167,748株 21年3月期 1,740株
- ③ 期中平均株式数(四半期累計期間) 22年3月期第3四半期 12,400,456株 21年3月期第3四半期 125,417株

(注)22年3月期第3四半期の期末発行済株式数及び期末自己株式数につきましては、平成21年7月1日付で実施しました株式分割を加味しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。
2. 平成21年7月1日を効力発生日として普通株式1株を100株に分割し、1単元の株式の数を100株とする単元株制度を採用いたしました。

(ご参考) 株式分割に伴う遡及修正値

当社は、平成 21 年 5 月 19 日開催の取締役会決議及び平成 21 年 6 月 21 日開催の第 14 期定時株主総会における定款変更の承認可決に基づき、平成 21 年 7 月 1 日を効力発生日とし、普通株式 1 株を 100 株に分割し、1 単元の株式の数を 100 株とする単元株制度を採用いたしました。当該株式分割が前事業年度の開始の日に行われたと仮定した場合の 1 株当たり情報及び 1 株当たり配当金は以下のとおりです。

	1 株当たり四半期 (当期) 純利益	潜在株式調整後 1 株当 り四半期 (当期) 純利益	1 株当たり純資産
	円 銭	円 銭	円 銭
21 年 3 月期第 3 四半期	242.76	242.16	893.04
21 年 3 月期	303.87	303.26	946.63

(基準日)	1 株当たり配当金		
	第 2 四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭
21 年 3 月期	75.00	85.00	160.00

定性的情報・財務諸表等

1. 経営成績に関する定性的情報

当第3四半期累計期間（平成21年4月1日から平成21年12月31日まで）におけるわが国経済は、アジア地域における内需の回復などを背景として輸出関連指数が上昇傾向を継続するとともに輸入についても緩やかな持ち直しの動きが見られておりますが、デフレ基調の続く国内経済動向等に起因する企業収益の減少傾向、設備投資の低迷、国内雇用情勢の厳しい状況等から国内経済全体としての回復の動きには至っておらず、自立性に乏しい厳しい状況下での推移となりました。

また、当社が属する電気機器業界におきましても、エコポイント関連商品である各種家電製品やエコカー減税による好調な販売を続けるハイブリッド車等に使用される電子部品に係る需要が堅調に推移いたしました。特に中小企業や個人の景況感は依然として低迷しており、電気機器業界全体としては厳しい状況下での推移となりました。

一方、当社事業の中心的市場である遊技機器市場（注1）につきましては、過年度における遊技機器に係る規則改正による減速傾向の継続や新型インフルエンザの拡大、国内経済の厳しい状況の継続や個人所得の低迷等の影響が懸念されておりましたが、大型液晶表示装置を搭載したパチンコ機の製造販売が堅調に推移するなど全体的に比較的堅調な推移となりました。

かかる環境の中で当社は、パチンコ機を中心とした遊技機器の搭載液晶の大型化傾向に照準を合わせたグラフィックスLSI（注2）製品「AG301」を中心にサウンドLSI（注3）製品、LED（注4）ドライバLSI製品、メモリモジュール（注5）製品等の各種製品の販売に注力するとともに、当事業年度第2四半期から量産販売を開始したグラフィックス機能、サウンド機能、LEDコントロール機能等複数の機能をワンチップに統合化したLSI製品「AG333」の販売にも注力いたしました。

上記市場分析のとおり、期初から当第3四半期累計期間まで、大型液晶表示装置を搭載したパチンコ機の製造が堅調に推移したことなどを受けて、当社の主力製品であるグラフィックスLSI製品（機能統合化製品を含む）の販売数量が前年同期間との比較で24万個増となる202万個になったことなどを要因として、遊技機器市場向けグラフィックスLSI製品の売上が増加いたしました。一方、サウンドLSI製品、LEDドライバLSI製品及びメモリモジュール製品等の遊技機器市場向け製品につきましては、機能統合化製品（サウンド機能等を取り込んだグラフィックスLSI製品）の量産販売開始や顧客需要等の影響により前年同期間に比較して販売数量が減少し、売上高も減少しております。また、遊技機器市場以外の組み込み機器市場（注6）向けグラフィックスLSI製品につきましても、昨年来続く国内産業低迷の影響等により、前年同期間に比較して製品販売数量が減少しており、売上高が減少いたしました。

以上の結果、当第3四半期累計期間の売上高は11,899百万円（前年同期比2.6%増）、営業利益は4,988百万円（前年同期比0.5%増）、経常利益は4,999百万円（前年同期比0.2%増）、当四半期純利益は3,083百万円（前年同期比1.3%増）となりました。

- (注) 1. 「遊技機器市場」とは、パチンコ機及びパチスロ機等の製造に係る市場を意味しています。
2. 「グラフィックスLSI」とは、液晶表示装置等に表示を行うためのLSIを意味しています。
3. 「サウンドLSI」とは、デジタル化された音声データを再生するためのLSIを意味しています。
4. 「LED」とは、Light Emitting Diodeの略称です。導電することで発光する半導体素子を意味しており、発光ダイオードとも言われています。
5. 「メモリモジュール」とは、遊技機器の画像表示用基板に搭載される画像データを保持しておく部分の仕組みを意味しています。
6. 「組み込み機器市場」とは、「広義の組み込み機器の中から遊技機器を除いたその他の機器の製造に係る市場」として使用しています。

2. 財政状態に関する定性的情報

①当第3四半期末の資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期末の資産合計は、前年同期末との比較で1,876百万円増加となる14,680百万円（前年同期末比14.7%増）となりました。この増加の主な要因は、前年同四半期以降における事業活動の結果得られた現金及び預金の増加（1,236百万円）や主力製品の販売増加等に伴う売掛金の増加（567百万円）等であります。

当第3四半期末の負債合計は、前年同期末との比較で164百万円増加となる1,888百万円（前年同期末比9.5%増）となりました。この増加の主な要因は、製品販売数量の増加に伴う製品仕入れの増加に起因する買掛金の増加（82百万円）とその他流動負債の増加（59百万円）となっております。

当第3四半期末の純資産合計は、前年同期末との比較で1,712百万円増加となる12,792百万円（前年同期末比15.5%増）となりました。この増加の主な要因は、利益剰余金の増加（1,715百万円）となっております。

②キャッシュ・フローの状況

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期累計期間における営業活動により増加した資金は1,244百万円となりました。

この増加は主に、当第3四半期における税引前四半期純利益(4,999百万円)、法人税等の支払(2,324百万円)、売上債権の増加(1,648百万円)及び仕入債務の増加(561百万円)によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期累計期間における投資活動により支出した資金は220百万円となりました。

この支出は主に、有形固定資産の取得による支出(149百万円)及び無形固定資産の取得による支出(70百万円)によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期累計期間における財務活動により支出した資金は2,032百万円となりました。

この支出は主に、当第3四半期累計期間に係る配当金の支払(2,039百万円)によるものであります。

以上の結果、当第3四半期末の現金及び現金同等物の残高は、前事業年度末に比べて1,008百万円減少となる10,788百万円となりました。

3. 業績予想に関する定性的情報

当第15期第3四半期累計期間における遊技機器市場での当社LSI製品の採用動向は、1. 経営成績に関する定性的情報に記載の市場動向等を受けて中核製品であるグラフィックスLSI製品の販売が当社の当初想定を上回る推移となっております。一方で、サウンドLSI製品やLEDドライバLSI製品等その他製品につきましては、顧客の需要動向等の影響により想定を下回る推移となりました。また、グラフィックスLSIにつきましては、一部製品が量産販売開始初年度である点やパチスロ機向け製品需要の拡大を受け、販売製品構成が当初想定と異なる構成となっております。また、現在、当社が入手しております需要見通し等を勘案すると、当第3四半期累計期間後における各種製品に係る需要動向に大幅な変動はないものと分析しております。

販売製品構成に関しましては、以上のとおり当初想定と異なる可能性があります。当社主力製品であるグラフィックスLSI製品の好調な需要動向等により、第15期通期売上高計画及び各利益計画につきましては、概ね当社の当初計画に沿う数値となるものと分析しております。

従いまして、平成21年4月28日に公表いたしました業績予想は変更しておりません。

4. その他

(1) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

①法人税等の計上基準につきましては、法定実効税率をベースとした年間予測税率により計算しております。

②当第3四半期会計期間末のたな卸高につきましては、実地たな卸を省略し、前期末の実地たな卸高を基礎とした帳簿たな卸により算定しております。

(2) 四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。

5. 四半期財務諸表
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

	当第3四半期会計期間末 (平成21年12月31日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,788	7,797
売掛金	2,334	686
有価証券	3,999	3,998
商品及び製品	610	469
原材料及び貯蔵品	2	1
その他	248	244
流動資産合計	13,984	13,198
固定資産		
有形固定資産	242	296
無形固定資産	242	263
投資その他の資産	212	201
固定資産合計	696	761
資産合計	14,680	13,960
負債の部		
流動負債		
買掛金	820	259
未払法人税等	747	1,151
その他	320	815
流動負債合計	1,888	2,226
負債合計	1,888	2,226
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,018	1,018
資本剰余金	861	861
利益剰余金	11,504	10,482
自己株式	△600	△623
株主資本合計	12,784	11,739
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	8	△5
評価・換算差額等合計	8	△5
純資産合計	12,792	11,734
負債純資産合計	14,680	13,960

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
売上高	11,595	11,899
売上原価	4,870	4,998
売上総利益	6,724	6,901
販売費及び一般管理費	1,763	1,912
営業利益	4,961	4,988
営業外収益		
受取利息	24	8
受取配当金	2	1
雑収入	2	3
営業外収益合計	29	12
営業外費用		
株式交付費	0	1
自己株式取得手数料 為替差損	1	—
固定資産除却損	0	0
営業外費用合計	2	1
経常利益	4,988	4,999
税引前四半期純利益	4,988	4,999
法人税等	1,943	1,916
四半期純利益	3,044	3,083

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	4,988	4,999
減価償却費	125	198
長期前払費用償却額	9	2
受取利息及び受取配当金	△26	△9
売上債権の増減額(△は増加)	547	△1,648
たな卸資産の増減額(△は増加)	△464	△141
その他の流動資産の増減額(△は増加)	0	△2
仕入債務の増減額(△は減少)	△178	561
その他の流動負債の増減額(△は減少)	△298	△427
未払消費税等の増減額(△は減少)	△88	26
その他	△1	0
小計	4,612	3,559
利息及び配当金の受取額	26	9
法人税等の支払額	△2,930	△2,324
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,709	1,244
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△75	△149
無形固定資産の取得による支出	△118	△70
その他	△0	△0
投資活動によるキャッシュ・フロー	△193	△220
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の処分による収入	24	7
自己株式の取得による支出	△586	△0
配当金の支払額	△2,127	△2,039
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,689	△2,032
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△1,174	△1,008
現金及び現金同等物の期首残高	10,726	11,796
現金及び現金同等物の四半期末残高	9,551	10,788

(4) 継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。

6. その他の情報

生産、受注及び販売の状況

(1) 生産実績

当第3四半期累計期間の生産実績は次のとおりであります。

製品区分	当第3四半期累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)	前年同期比 (%)
特定用途向LSI (ASSP) (百万円)	12,040	95.1
顧客専用LSI (ASIC) (百万円)	4	—
合計 (百万円)	12,045	95.2

(注) 1. 金額は販売価額によっております。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3. ASSPとは、Application Specific Standard Productの略。特定の応用機器、使用目的のために設計、又は製造されるLSIで、複数の顧客に対して販売を行うものをいいます。また、ASICとは、Application Specific Integrated Circuitの略で、特定顧客の特定の応用機器、使用目的のために設計、又は製造されるLSIで、開発を依頼された特定の顧客に対してのみ販売を行うものをいいます。

(2) 受注実績

当第3四半期累計期間の受注実績は次のとおりであります。

製品区分	当第3四半期累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)			
	受注高 (百万円)	前年同期比 (%)	受注残高 (百万円)	前年同期比 (%)
特定用途向LSI (ASSP)	10,285	78.3	2,427	47.0
顧客専用LSI (ASIC)	—	—	—	—
合計	10,285	78.3	2,427	47.0

(注) 1. 金額は販売価額によっております。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 販売実績

当第3四半期累計期間の販売実績は次のとおりであります。

製品区分	当第3四半期累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)	前年同期比 (%)
特定用途向LSI (ASSP) (百万円)	11,894	102.6
顧客専用LSI (ASIC) (百万円)	4	—
合計 (百万円)	11,899	102.6

(注) 1. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2. 前第3四半期累計期間及び当第3四半期累計期間の主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりであります。

相手先	前第3四半期累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)		当第3四半期累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)	
	金額 (百万円)	割合 (%)	金額 (百万円)	割合 (%)
緑屋電気株式会社	10,520	90.7	11,109	93.4

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

最近における四半期毎の業績の推移

平成22年3月期

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

	第1四半期 21年4月～21年6月	第2四半期 21年7月～21年9月	第3四半期 21年10月～21年12月	第4四半期 22年1月～22年3月
	百万円	百万円	百万円	百万円
売上高	3,928	3,824	4,146	—
売上総利益	2,348	2,200	2,352	—
営業利益	1,731	1,518	1,738	—
経常利益	1,735	1,521	1,743	—
税引前四半期純利益	1,735	1,521	1,743	—
四半期純利益	1,067	942	1,073	—
1株当たり四半期純利益	86円12銭	75円98銭	86円52銭	—
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	第4四半期末
	百万円	百万円	百万円	百万円
総資産	13,335	15,215	14,680	—
純資産	11,769	12,715	12,792	—
1株当たり純資産	948円97銭	1,025円22銭	1,031円44銭	—

(注) 当社は、平成21年7月1日付をもって1株につき100株の割合で株式分割を行っております。なお、1株当たり四半期純利益及び1株当たり純資産は、期首に分割が行われたものとして計算しております。

平成21年3月期

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

	第1四半期 20年4月～20年6月	第2四半期 20年7月～20年9月	第3四半期 20年10月～20年12月	第4四半期 21年1月～21年3月
	百万円	百万円	百万円	百万円
売上高	3,307	4,191	4,096	3,822
売上総利益	1,915	2,434	2,374	2,227
営業利益	1,424	1,729	1,807	1,186
経常利益	1,432	1,739	1,816	1,180
税引前四半期純利益	1,432	1,739	1,816	1,180
四半期純利益	878	1,059	1,106	756
1株当たり四半期純利益	7,001円71銭	8,439円81銭	8,829円96銭	6,098円89銭
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	第4四半期末
	百万円	百万円	百万円	百万円
総資産	12,161	13,951	12,804	13,960
純資産	10,446	11,517	11,080	11,734
1株当たり純資産	83,245円67銭	91,634円04銭	89,304円18銭	94,663円15銭